第21回
平城京展

奈良市所蔵の出土品精選

平城京展を彩った品々

第8回平城京展　会場（史跡文化センター）風景

開催にあたって

奈良市教育委員会が主催する「平城京展」は、1982（昭和57）年以来、ほぼ毎年開催され、今回で、21回目を迎えます。これまで様々なテーマで、開催してきましたが、21回目を迎えるのを機にこれまで20回分の「平城京展」を振り返ってみたいと思います。毎年見ていただいていた方には、懐かしく思われるかも知れません。また、はじめて来られた方は20回分の愉(たの)しみがあるかも知れません。これまでの「平城京展」を振り返っていただきながら、奈良市の歴史や文化、文化財保護に対する理解を深めていただきたいと思います。

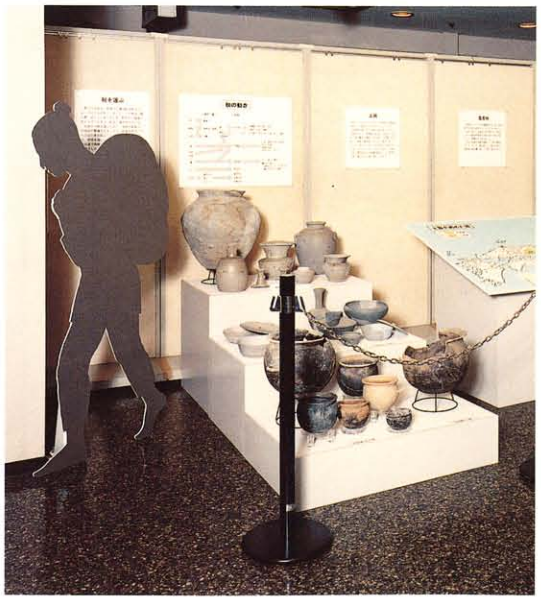
なお、今回の展示を開催するにあたり、御協力いただいた関係機関各位に心より感謝申し上げます。

平成15年11月1日

奈良市教育委員会
教育長　冷水　毅

例　言

1. この冊子は、平成15年11月1日から12月26日まで、奈良市埋蔵文化財調査センター展示室で開催する第21回平城京展「奈良市所蔵の出土遺物精選-平城京展を彩った品々-」の解説パンフレットです。
2. 本書で使用した写真の一部には、陳列していないものもあります。
3. 本書の編集・レイアウトは、埋蔵文化財調査センター職員の協力のもとに、森下浩行がおこないました。



第10回平城京展　展示風景

表紙：銅製分銅と三彩陶器（平城京跡出土）

第19回平城京展　会場（埋蔵文化財調査センター）風景

「平城京展」を振り返って

「平城京展」は、1982（昭和57）年に宮跡庭園のある平城京左京三条二坊の地に史跡文化センターが完成したのを機に開催されることになりました。ほぼ毎年開催され、今回で、21回目を迎えます。

第17回からは、埋蔵文化財調査センターがリニューアルされたのを機に、ここの展示室で開催するようになりました。

また、第3回からは、テーマを設けて行なうようにしています。最初の頃は速報展示として開催することもありましたが、会場が埋蔵文化財調査センターに移ってからは、速報展示は、平城京展と分離して実施しています。

回数	開催年度	展示テーマ	会　場
第1回	1982（昭和57）	まちとくらし	史跡文化センター
第2回	1984（昭和59）		史跡文化センター
第3回	1985（昭和60）	奈良市の最近の発掘調査成果	史跡文化センター
第4回	1986（昭和61）	平城京の発掘とその歩み	史跡文化センター
第5回	1987（昭和62）	新羅の都慶州と奈良	史跡文化センター
第6回	1988（昭和63）	古代の大和　－奈良県内市町村の発掘成果より－	史跡文化センター
第7回	1989（平成１）	中近世奈良町とその周辺　－平城京その後－	史跡文化センター
第8回	1990（平成２）	奈良市の発掘調査成果	史跡文化センター
第9回	1991（平成３）	奈良市の古墳時代　－近年の調査から－	史跡文化センター
第10回	1992（平成４）	平城京を築いた人々　－そのくらしを訪ねて－	史跡文化センター
第11回	1993（平成５）	平成3・4年度発掘調査成果速報展	史跡文化センター
第12回	1994（平成６）	大安寺　－発掘調査の成果から－	史跡文化センター
第13回	1995（平成７）	平成5・6年度発掘調査成果速報展	史跡文化センター
第14回	1996（平成８）	祈りとまじない	史跡文化センター
第15回	1997（平成９）	出土文字から読む奈良の古代	史跡文化センター
第16回	1998（平成10）	発掘された奈良　－近年の発掘調査と史跡整備－	史跡文化センター
第17回	1999（平成11）	発掘調査２０年　－よみがえる奈良市の歴史と文化－	埋蔵文化財調査センター
第18回	2000（平成12）	古代・中世のリサイクル　－先人たちの知恵と工夫－	埋蔵文化財調査センター
第19回	2001（平成13）	考古学・いろ・色　－出土遺物の色彩と輝き－	埋蔵文化財調査センター
第20回	2002（平成14）	平城京に眠る弥生文化	埋蔵文化財調査センター

「平城京展」一覧

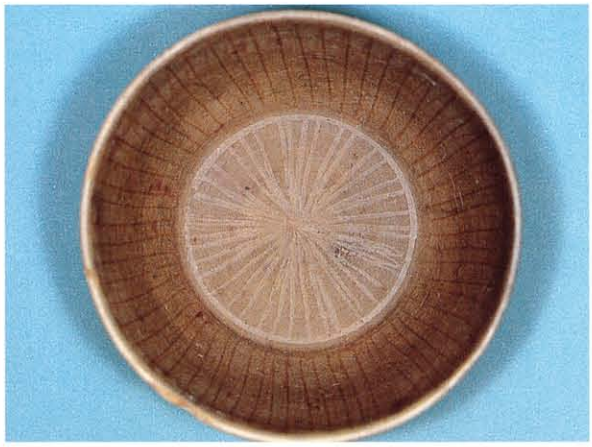
古墳時代の石釧と石杵（柏木遺跡出土）[第11回]

「平城京展」の速報展示

「平城京展」では、速報性を重視した展示を行ってきました。

史跡文化センターで開催した16回の「平城京展」のうち、5回（第3回、第6回、第8回、第11回、第13回）を速報展示として実施しています。また、それ以外のテーマで実施した場合にも、第9回では近年の調査成果を中心に行い、第16回では別に速報展示のコーナーを設けています。

また、会場が埋蔵文化財調査センターに移り、「平城京展」と分離した後も、年に2回の速報展示をロビーで行っており、そのうち、秋の1回は「平城京展」と同時に開催しています。



上左：古墳時代の石製合子（井上町出土）[第11回]／右：奈良時代の甲斐地方の杯（平城京跡出土）[第8回]
下：奈良時代の胞衣と銭の入った須恵器皿（平城京跡出土）[第8回]

古墳時代の陶棺（赤田横穴墓群出土）[第3回]

奈良時代の木製さいころ（平城京跡出土）[第6回]

奈良時代の銅製分銅（平城京跡出土）[第8回]

左：江戸時代の水琴窟（すいきんくつ）に使用されていた陶器甕（奈良町遺跡出土）[第11回]
右：奈良時代の木枠の井戸（平城京跡出土）[第13回]

馬具ー鉄製轡（法蓮町出土）

第7回平城京展　「中近世奈良町とその周辺」
―平城京その後―

奈良には、平城京の遺跡だけでなく、それ以後の様々な文化遺産が現在も残されています。

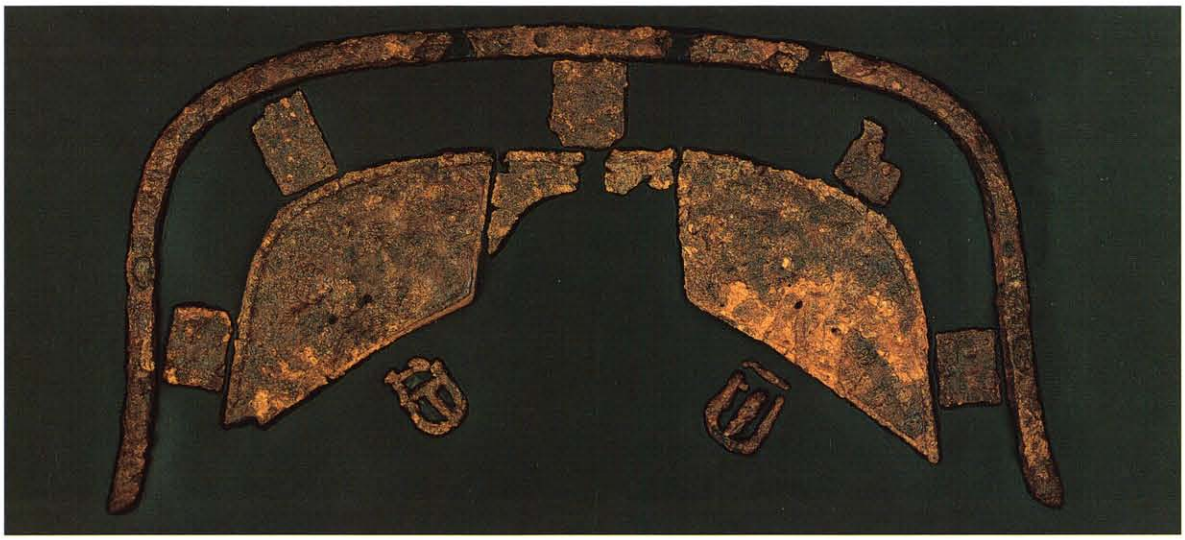
第7回の平城京展では、中世、近世の奈良をとりあげて、平城京以後の奈良の様相を考えてみました。

今回の展示では、六条町で出土した年号の記された曲物と法蓮町で出土した馬具（轡）をとりあげてみました。曲物は、製作された実際の年代のわかる資料として重要で、馬具は、当時の人々が馬をどのように取り扱っていたかを知る上で重要です。瓦器、陶器、土師器、須恵器がともに出土しています。

上：曲物（墨書「湯屋　延久参年四月十日」）
下：瓦器・土師器・東播磨産須恵器
（上・下ともに六条町出土）

上：渥美産陶器壺
下：瓦器・土師器（上・下ともに法蓮町出土）

馬具－鞍金具（後輪）（ベンショ塚古墳出土）

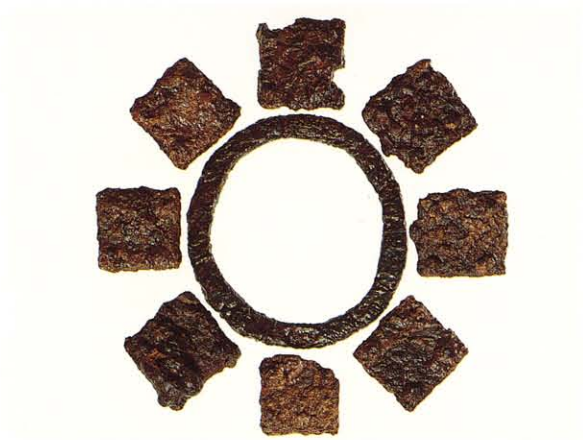


第9回平城京展　「奈良市の古墳時代」
―近年の調査から―

奈良市内には、大王陵の古墳群と考えられる佐紀古墳群があり、ウワナベ古墳やコナベ古墳などの全国的に見ても有名な古墳があります。

第9回の平城京展では、第7回とは逆に、平城京造営前の古墳時代について考えてみました。

今回の展示では、山町に所在する中期の前方後円墳、ベンショ塚古墳についてとりあげました。第9回が開催された頃は、まだ、発掘されて間もなかった遺物も、修復・保存の処置がとられ、今日では、より良い状態でみなさまにみてもらうことができるようになりました。



上：馬具－環状雲珠／下：鉄製眉庇付冑
（ともにベンショ塚古墳出土）

鉄製眉庇付冑と短甲（ベンショ塚古墳出土）

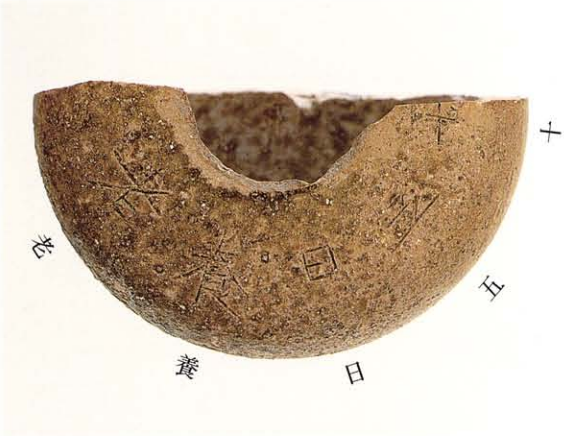
尾張から運ばれた須恵器（平城京跡、大安寺旧境内出土）

第10回平城京展　「平城京を築いた人々」
—そのくらしを訪ねて—

第10回の平城京展では、平城京の内外の調査から、平城京の時代に暮らす人々がどのように生活していたかを考えました。都（みやこ）での生活のみにとどまらず、東国や西国での人々の生活にも目をやりながら、都と地方とのつながりも考えました。

平城京には、各地方から様々な文物が運ばれてきますが、今回の展示では、平城京の周辺地方（播磨（はりま）・尾張（おわり）・美濃（みの））から平城京内に運ばれてきたと思われる土器について、とりあげました。

そのまま商品として運ばれてきた土器もあれば、物を入れた容器として運ばれてきたものもあると思われます。



上：「養老…」の線刻がある土器（平城京跡出土）
下：「美濃国」の刻印がある土器（平城京跡出土）

播磨（上）・美濃（下）から運ばれた土器
（平城京跡、大安寺旧境内出土）

大安寺式軒瓦（大安寺旧境内出土）

第12回平城京展　「大　安　寺」
—発掘調査の成果から—

第12回の平城京展では、南都七大寺のひとつである「大安寺」をテーマにしました。

大安寺は、聖徳太子の熊凝道場以来、1300年以上もの歴史を有し、奈良時代に藤原京の大官大寺から移ってきた壮大な伽藍を誇った官の大寺です。

今回の展示では、寺の威容を示す瓦をとりあげました。大安寺の主要な軒瓦は、藤原京から運ばれてきた「大官大寺式」、大安寺独自の「大安寺式」、平城宮の瓦と同笵である「平城宮系」と呼ばれるものがあります。大安寺旧境内から出土する瓦は、やはり「大安寺式」が最も多く、全体の半数を越えています。

上：大官大寺式軒瓦／下：大安寺式軒瓦
（ともに大安寺旧境内出土）

上：大安寺所用の鬼瓦／下：平城宮系軒瓦
（ともに大安寺旧境内出土）

人面墨書土器（平城京東堀河跡出土）

第14回平城京展　「祈りとまじない」

人々は、古くから、自然災害や病気などの様々な脅威や不安をぬぐうために、様々な行為（祈りやまじない）を行なってきました。こうした行為を祭祀と呼び、その形態は時代によっても異なりました。

第14回の平城京展では、古代から中世の人々が、暮らしの中で、思いや願いをどのようにかなえようとしてきたかについて考えました。

今回の展示は、様々な祭祀形態の中で、奈良時代の人面墨書土器をとりあげました。土器に描かれた顔は、恐ろしげな表情をしており、厄病神を表しているといわれます。穢れを水に流す祓で使用されたようです。

人面墨書土器（上：平城京東市跡出土）
（下：平城京東堀河跡出土）

人面墨書土器（上：平城京東堀河跡出土）
（下：平城京東市跡出土）

墨書土器「東院」（大安寺旧境内出土）

墨書土器「大安寺　左右酒」（大安寺旧境内出土）

第15回平城京展「出土文字から読む奈良の古代」

第15回の平城京展では、古代、中世の「文字」が書かれた出土品を展示しました。これらの多くは肉筆で、当時の人々がどのような思いを込めて文字を書き、どのように使用したのかを考えました。

今回の展示では、墨書土器（ぼくしょどき）についてとりあげました。平城京左京二条二坊十二坪とその南の二条大路の側溝から、「相撲（すもう）」「相撲所」「左相撲」と書かれた相撲関係の墨書土器が、大安寺旧境内からは、「大安寺」「大寺」「東院」などの場所を示す墨書土器が、東市（ひがしいち）跡からは、「鯛（たい）」などの市で取り扱われただろうと思われるものの墨書土器が、それぞれ出土しています。

上：墨書土器「左相撲」（平城京跡出土）
下：墨書土器「相撲所」（平城京跡出土）

上下ともに：墨書土器「鯛」（平城京東市跡出土）

杉山2号瓦窯を正面から（大安寺旧境内出土）

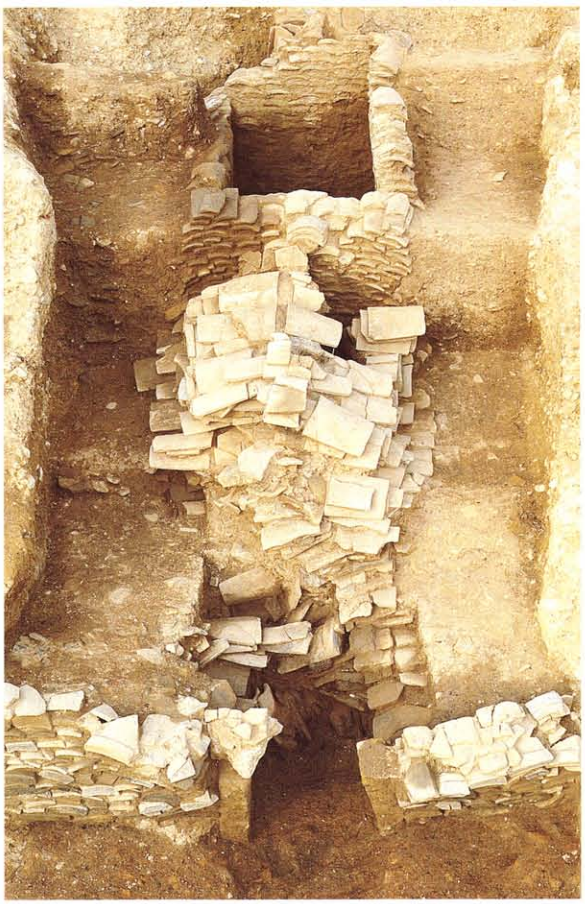
第16回平城京展　「発掘された奈良」
—近年の発掘調査と史跡整備—

第16回の平城京展では、史跡整備に係わる発掘調査成果を展示しました。

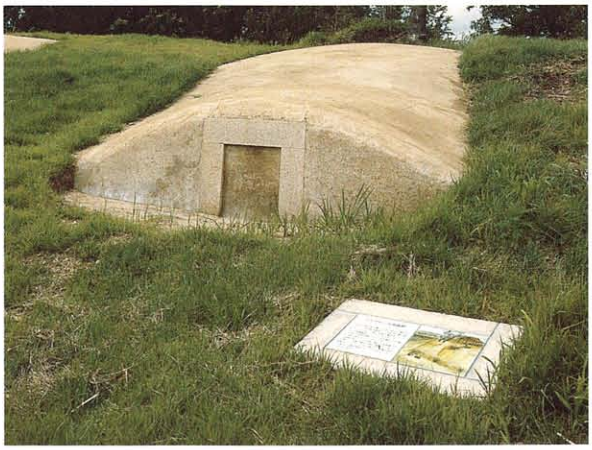
平成8年度に「史跡大安寺旧境内　杉山古墳地区」、平成10年度に「史跡平城京朱雀大路跡」の史跡整備が完成しました。

「史跡大安寺旧境内」については、この後も平成15年度に「南大門地区」の整備が完了する予定で、現在は、「西塔地区」の発掘調査を行っています。

今回の展示では、平成8年度に整備が完了した杉山瓦窯跡群をとりあげました。杉山瓦窯跡群は、杉山古墳の前方部に6基が築かれており、現在は、窯の位置を明示して、保存整備しています。



杉山2号瓦窯を上面から（大安寺旧境内出土）



上：杉山古墳と瓦窯跡群
下：杉山2号瓦窯整備状況

平瓦で築いた方形の井戸（大安寺旧境内出土）

平瓦で築いた円形の井戸（青野町出土）

第18回平城京展「古代・中世のリサイクル」

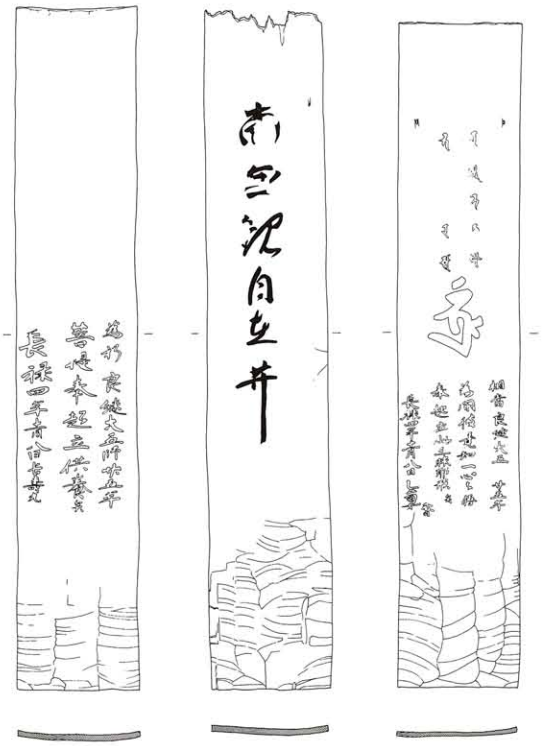
—先人たちの知恵と工夫—

第18回の平城京展では、いにしえの人々が限られた資源を活かすために、何を、どのように工夫して使用してきたかについて、平城京を中心にとりあげました。

昔の人々にとって、新たな資源の確保は困難であったようで、廃物利用・再利用・転用といった様々な苦心の跡がみられます。

今回の展示は、中世の井戸をとりあげました。

青野町で出土した室町時代の井戸は、僧良継の追善供養のために作られた卒塔婆を井戸枠材として再利用していました。また、瓦を再利用して築いた井戸もあり、これは廃瓦の多い寺院の周辺で目立ちます。



井戸枠に使われていた卒塔婆図

卒塔婆が使われていた井戸（青野町出土）

三彩丸瓦（平城京跡出土）

第19回平城京展　「考古学・いろ・色」

—出土遺物の色彩と輝き—

第19回の平城京展では、少し色にこだわってみました。もちろん、当時の色をそのまま残したものは多くありません。しかし、当時の色を想像してみたら、これまでとは違った歴史の色に気がつくかも知れません。

今回の展示では、色彩豊かな展示品の中から、三彩（さんさい）についてとりあげました。平城京の時代を代表する三彩瓦や三彩陶器は、緑・白・黄（褐）色に彩（いろど）られるだけでなく、ガラスのような輝きがあり、当時、最も華やかなものであったと思われます。

三彩陶器には、中国産の唐三彩（とうさんさい）と国産の奈良三彩（ならさんさい）とがあり、大安寺旧境内からは、たくさんの奈良三彩が出土しています。

上下とも三彩垂木先（たるきさき）瓦（大安寺旧境内出土）

三彩陶器　上：唐三彩／下：奈良三彩
（ともに平城京跡出土）

絵画土器（芝辻遺跡出土）

第20回平城京展　「平城京に眠る弥生文化」

第20回の平城京展では、弥生時代に目を向けてみました。ここ数年、平城京の調査が進むにつれて、さらに古い時代の弥生時代の遺構、遺物が見つかっています。平城京と同様に、弥生時代にも人々の生活があったことを見てもらいました。

今回の展示では、特に絵画、あるいは記号が描かれた土器についてとりあげました。文字の使用されていない時代、絵画や記号によって様々なものを表現し、人々は何を願ったのでしょうか。

また、土坑（どこう）から土器10点がこわれずに元の形を保って出土しています。これも何らかの祭祀（さいし）（まつり）に使ったと思われます。

上：土坑出土土器／下：土器の出土状況
（ともに大森町出土）

絵画土器（三条遺跡出土）

第21回平城京展

奈良市所蔵の出土品精選

—平城京展を彩った品々—

平成15年11月1日
編集　奈良市埋蔵文化財調査センター
発行　奈良市教育委員会